

学校法人多摩美術大学の平成21年度(2009年度)の事業報告をとりまとめましたので、ご報告申し上げます。

## 1. 事業の概況

一昨年のアメリカのリーマンショックは、現在も世界経済に大きな爪痕を残しています。さらに最近では、EU加盟国であるギリシャの経済破綻が大問題となっており、日米の株価にも影響しています。このような百年に一度と言われる経済の大混乱で、法人資産の運用による損失や、経済減速による雇用不安のため、「就職内定取消採用見送り」等の社会問題となっています。また、政権の交代により業務仕訳け等見直しがされ、平成22年度からは(政府開発援助)外国人留学生修学援助費補助金が廃止となり、留学生を多く抱える大学にとっては経営を揺るがす大問題となっています。

わが国の少子化問題はさらに深刻化を増し、ピーク時の平成4年度205万人の18歳人口が21年度では、41%減の121万に減少しました。今後7～8年間は18歳人口の減少がやや収まり120万人台が続きますが、その後はまた減少の一途を辿ります。私学にとって「改革と財政基盤強化」のために残された時間はわずかです。しかし、今年も4年制私立大学の数が増え、昨年の589校から595校となる一方で、地方の私学や入学定員800名未満の中小規模の大学を中心に、定員割れ私大が全体の46.5%に上り、このためこの春の学生募集を停止した大学が5校あります。また、帰属収入で消費支出を賄えない法人「帰属収支差額赤字法人」が222校、全体の39%(約4割)になり、首都圏大規模校との格差がますます広がる二極化を進行させています。

こうした状況にあって、大学は国からの認証を受けた第三者機関による認証評価制度や私学法改正に基づく管理運営制度の強化、財務情報公開制度による大学の質の向上と広く社会に向けた説明責任を果たす運営体制が求められています。本学は、以上のことを踏まえ、質の高い学生を集め、時代を先取りした教育を進めるため、建学の理念に基き、さらなる改革への取組みを進めています。

### ◎大学改革の推進

本学は平成20年に大学基準協会に認証評価を申請、実地視察を受け、平成21年3月に大学基準に適合していると認定されました。その際、いくつか助言をいただいております。さらに自らの質を保証するシステムの構築に取り組んでまいります。

次に、国際的な美術家・デザイナー育成のための環境整備では、平成18年に始まったアメリカのアートセンター・カレッジオブデザインとのパシフィックリム・プロジェクト(教育交流)は4年目を迎え、ジャパンステージに本学13名米国12名、計25名の学生が参加しました。成果発表会は青山のスパイラルガーデンで参加者300人を集めて行われました。

また、文科省の「大学院教育改革支援プログラム」に採択された「異文化相互批評が可能にする高度人材育成」通称CO-CORE(ココア)プロジェクトが、昨年に引き続き3カ国(韓国・中国・フィンランド)25名の学生とともに国際講評会を韓国、中国で行い、3月に原宿クエストホールで成果報告会を行いました。

さらに前年度現代GPに採択された「バナナ・テキスタイル・プロジェクト」が優れた成果をあげたとして文科省から調査官の来訪を受けました。

教職課程では、芸術学科で美術の教員免許取得が可能となり、また教員免許状更新講習を開設し、37名の受講生を受け入れました。

## ◎管理運営面の改革推進

- 大学運営 公的研究費に関連して研究活動の不正行為を防止するため、告発窓口と合わせて公益通報の規程整備を行いました。  
少子化に対応するため、学生募集業務の見直しを行い、教務部の入試業務と企画広報部の入試広報業務の統合・強化を図るため、入学センターの立ち上げに向けて、業務改革に取り組みました。
- 労務管理 職員の健康管理のため、残業時間の削減と振替休日の取得の確認をすすめ、前年度比で残業時間を12%削減しました。
- 施設管理 八王子キャンパスの省エネ対策に取り組み、デマンド・コントローラーを設置しました。

## ◎施設整備

### ●校舎等建設関係

八王子キャンパス木彫棟に集塵機を設置。  
上野毛キャンパス映像スタジオに大型スクリーンを設置。  
同3号館映像演劇学科のAVルームを整備しました。  
多摩センターの美術館の内装改修工事を実施。  
山中湖セミナーハウス(純林苑)の屋根の葺き替え工事を実施。  
その他

## ◎当期に行った主な事業

### ●大学院の充実化の取り組み

全大学院生を対象とした学修奨励制度を設け、海外渡航及び研究成果発表を支援するため審査により1人当たり10万円を支給しました。

### ●多摩美術大学奨学金等の充実

家計急変者に対応するため多摩美術大学緊急奨学金を設置しました。  
また、リーマンショックによる経済困窮の私費留学生145名に一律5万円の緊急支援を行いました。

## ◎事務部門における主な事業

各事務部門における主な報告は以下の通りです。

- 企画広報部 …入試広報業務の入学センターへの移管、オープンキャンパスの土日開催、サブパンフ、入試ガイド等の発行など。学外の発表の場としてアキバタマビ21の企画運営を開始。
- 教務部 …カリキュラムの多様化・充実化、芸術学科の教職課程認定、入試広報業務の移管・受入と入学センター設立準備、海外協定校との交換留学生実施
- 研究支援部 …大学院GP(通称CO-CORE)の実施・成果報告会、取組4年目となる通称「CREST」のシンポジウム、成果発表など。科研費補助金ルールの見直し。学内研究費17件ほか。
- 学生部 …学生生活支援強化、奨学金の充実、課外活動・学生相談支援強化、キャリア教育型指導等進路指導体制の強化、急増する進路相談窓口体制の強化。
- 造形表現学部事務部 …指定校推薦入試の実施、成績評価説明請求制度の確立。
- 図書館 …学生へのサービス向上を目指し、OPACソフトのバージョンアップ、外部データベースの充実、館内上映会の実施、アーケードギャラリーの企画10本、映像資料の全面開架。
- 美術館 …年間8本の企画展、博物館実習、共同研究、生涯学習への参画。
- メディアセンター …学内・産学共同研究推進、施設の環境整備と技術支援強化、安全対策強化。
- 芸術人類学研究所 …研究プロジェクトの実施、友の会会報誌発行、シンポジウム開催など成果発信。
- 生涯学習センター …年間128講座の実施、地域・関係公的機関等との連携の充実、高校との単位認定協力。

## 平成21年度予算の執行状況

当期の予算執行状況について、概要を報告します。  
なお、金額は千円未満を四捨五入して表示しています。

### 2. 資金収支計算

資金収支計算について、その主な内容を報告します。

【資金収支計算総括表】

(収入の部)

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	7,677,200	7,752,791	△75,591
手数料収入	246,100	234,257	11,843
寄付金収入	500	1,250	△750
補助金収入	587,400	655,039	△67,639
資産運用収入	113,600	147,028	△33,428
資産売却収入	1,300,000	1,300,000	0
事業収入	75,000	69,840	5,160
雑収入	55,200	70,343	△15,143
前受金収入	2,948,400	3,252,760	△304,360
その他の収入	319,023	310,579	8,444
資金収入調整勘定	△3,462,964	△3,481,485	18,521
当年度資金収入合計(A)	9,859,459	10,312,402	△452,943
前年度繰越支払資金	7,185,011	7,185,011	0
収入の部合計	17,044,470	17,497,413	△452,943

デザイン系学科のPC関連費徴収を廃止し学費の引き下げをしましたが、生産デザイン学科プロダクトデザイン専攻の収容定員増等により予算額を上回りました。

私立大学経常費補助金605,785千円の他、研究拠点形成費等補助金「若手研究者養成費」27,170千円と「教員免許状更新講習開設事業費」2,202千円および「研究整備費・特定図書」補助金3,320千円や「政府開発援助外国人留学生修学援助費」補助金15,599千円等の交付により予算額を上回りました。

預金金利は下降しましたが、運用資金量の増加や国債を中心とする長期債券での運用により予算額を上回りました。

国債、政府保証債等の長期有価証券の満期による償還額です。

(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費支出	3,851,300	3,626,660	224,640
教育研究経費支出	2,201,300	1,709,477	491,823
管理経費支出	356,200	282,292	73,908
借入金等利息支出	76,820	76,048	772
借入金等返済支出	595,400	595,390	10
施設関係支出	961,500	54,618	906,882
設備関係支出	410,500	252,644	157,856
資産運用支出	2,821,000	2,217,878	603,122
その他の支出	378,246	362,379	15,867
予備費	372,400	—	372,400
資金支出調整勘定	△289,188	△262,920	△26,268
当年度資金支出合計(B)	11,735,478	8,914,466	2,821,012
次年度繰越支払資金	5,308,992	8,582,947	△3,273,955
支出の部合計	17,044,470	17,497,413	△452,943

事務職員の業務改善取り組み効果により、超過勤務手当が減少しました。

共通教育棟改修工事手順の関係で(旧)図書館の取壊しが延期に、大学院生への奨学金「制作発表活動等奨励金」の増額およびPCソフトや周辺消耗品の増加を見込みましたが予算額を下回りました。

八王子キャンパスでの資料センター新築工事や共通教育棟耐震補強工事の着工が遅れたことで予算額を下回りました。

多摩美術大学奨学金の原資となる受取利息収入の増額を計るため、国債や政府保証債、財投機関債等を中心とする長期債券を購入しました。施設整備資金である第2号基本金引当資産として15億円設定しました。

上記により、次年度繰越支払資金が増加しました。

当年度資金収支差額(A)-(B)	△1,876,019	1,397,936	△3,273,955
------------------	------------	-----------	------------

### 3. 消費収支計算

消費収支計算について、その主な内容を報告します。

【消費収支計算総括表】

(消費収入の部)

(単位:千円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	7,677,200	7,752,791	△75,591
手数料	246,100	234,257	11,843
寄付金	500	79,856	△79,356
補助金	587,400	655,039	△67,639
資産運用収入	113,600	147,028	△33,428
資産売却差額	0	716	△716
事業収入	75,000	69,840	5,160
雑収入	55,200	70,343	△15,143
帰属収入	8,755,000	9,009,870	△254,870
基本金組入額合計	△2,621,200	△1,785,151	△836,049
消費収入の部合計	6,133,800	7,224,719	△1,090,919

現金1,250千円の他、現物寄付金として安齋重男写真作品75,570千円相当額、タイデザインセンターからガラステーブル2,000千円相当額や科学研究費補助金から購入された書籍他1,035千円相当額の寄贈がありました。

国債や政府保証債、財投機関債など信用リスクの低い長期債券および銀行大口定期預金などでの運用の結果予算を上回りました。

受託研究収入である地方公共団体、企業などからの産学共同の研究依頼が減り予算を下回りました。

(支出の部)

科目	予算	決算	差異
人件費	3,868,200	3,632,497	235,703
教育研究経費	3,775,900	3,283,991	491,909
(うち減価償却額)	1,574,600	1,574,514	86
管理経費	474,200	396,268	77,932
(うち減価償却額)	118,000	113,976	4,024
借入金等利息	76,820	76,048	772
資産処分差額	168,600	7,176	161,424
徴収不能額	0	0	0
予備費	380,100	—	380,100
消費支出の部合計	8,743,820	7,395,980	1,347,840

キャンパス整備の充実による建物や機器備品などの資産の増加とともに減価償却額が増額しています。

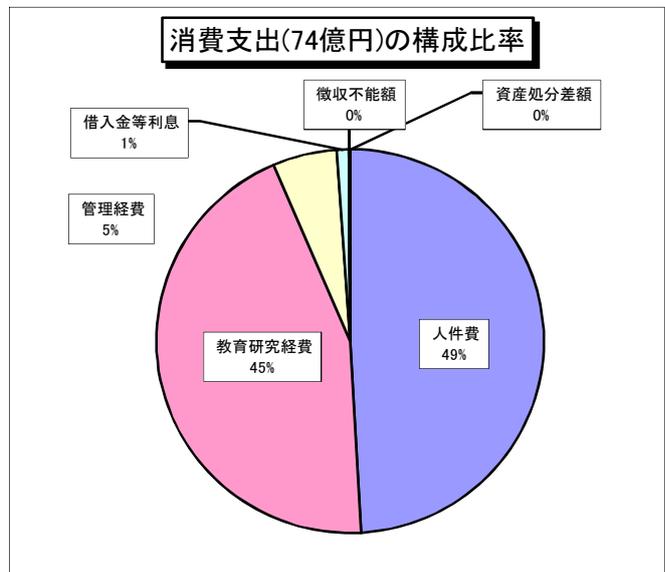
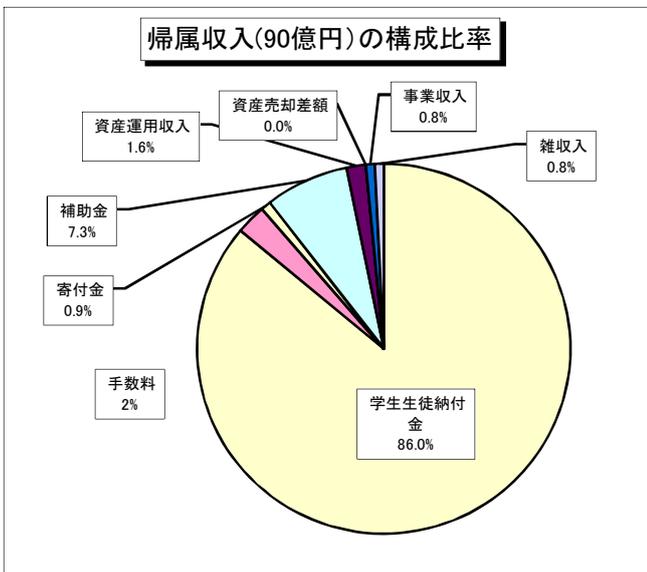
効率的な運営により管理経費を削減し教育研究に回す資金を確保しています。

上記の結果、帰属収入は255百万円予算を上回り、帰属収支差額比率は17.9%になりました。これは次年度以降も継続される施設整備計画の資金として充当されます。当年度は消費支出超過171百万円となり翌年度繰越消費支出超過額は6,651百万円になりました。この消費支出超過額は、将来計画にかかる基本金組入れや自己資金による施設設備充実の結果生じた多額の基本金組入額によるもので、中長期的には消費支出超過額を解消し今後も消費収支の均衡が図られる運営をめざします。

帰属収支差額 (注1)	11,180	1,613,890	△1,602,710
帰属収支差額比率 (注2)	0.1%	17.9%	—
当年度消費支出超過額	△2,610,020	△171,261	—
前年度消費支出超過額	△6,479,845	△6,479,845	—
翌年度繰越消費支出超過額	△9,089,865	△6,651,106	—

注1 帰属収支差額=帰属収入-消費支出

注2 帰属収支差額比率=帰属収支差額÷帰属収入×100



## 4. 貸借対照表

貸借対照表について、前年度からの増減を報告します。

(資産の部)

(単位:千円)

科目	H21年度末	H20年度末	増減
固定資産	54,029,348	54,439,345	△409,997
有形固定資産	39,796,625	41,106,425	△1,309,800
その他の固定資産	14,232,723	13,332,920	899,803
流動資産	8,702,192	7,515,226	1,186,966
合計	62,731,540	61,954,571	776,969

建物＝美術学部 絵画北棟2Fアトリエ内間仕切パネル工事  
デザイン棟GD学科PCルームB・D改修工事他  
構築物＝美術館 正面入口案内板設置工事  
教育研究用機器備品  
美術学部＝レーザー加工機1台、3DモデリングマシンMDX-540  
、アマノ集塵機WRT-5096TF型、Mac2.4・2.66GHz184台他  
造形表現学部＝2号館B04・05・06教室／本館301教室映像機器入替、ABB-230HD電動巻上スクリーン他

(負債の部・基本金の部・消費収支差額の部)

科目	H21年度末	H20年度末	増減
固定負債	3,950,933	4,440,486	△489,553
流動負債	4,186,134	4,533,501	△347,367
計	8,137,067	8,973,987	△836,920
第1号基本金	54,424,670	54,140,519	284,151
第2号基本金	6,000,000	4,500,000	1,500,000
第3号基本金	340,910	339,910	1,000
第4号基本金	480,000	480,000	0
計	61,245,580	59,460,429	1,785,151
消費収支差額	△6,651,107	△6,479,845	△171,262
負債、基本金、消費収支差額の部合計	62,731,540	61,954,571	776,969

資産運用の長期有価証券は6億円減少し48.9億円(H22/3月末の有価証券取得価額に対する評価額はプラス132百万円)、多摩美術大学施設整備資金引当資産(第2号基本金引当預金)が15億円増加し60億円、第3号基本金引当資産が1百万円増加し341百万円

現金預金は1,398百万円増加し8,583百万円、退職金財団交付金等の未収入金は200百万円減少し91百万円、前払金は11百万円減少し28百万円

長期借入金残高は返済により減少し1,801百万円  
退職給与引当金は2,150百万円

(参考)

正味資産額	54,594,473	52,980,584	1,613,889
-------	------------	------------	-----------

※正味資産＝資産-負債

減価償却額の累計額	14,496,592	13,177,715	1,318,877
基本金未組入額	376,442	482,492	△106,050

第1号基本金＝平成21年度自己資金による固定資産の新規取得や過年度の固定資産取得にかかる借入金返済額相当を基本金へ組入れました。

第2号基本金＝施設整備に係る組入れ、計画額90億円

貸借対照表についてH19年度～H17年度を報告します。

(資産の部)

(単位:千円)

科目	H19年度末	H18年度末	H17年度末
固定資産	54,205,438	55,130,210	50,648,394
有形固定資産	42,471,617	42,752,306	38,219,598
その他の固定資産	11,733,821	12,377,904	12,428,796
流動資産	6,317,745	5,585,388	7,488,416
合計	60,523,183	60,715,598	58,136,810

(負債の部・基本金の部・消費収支差額の部)

科目	H19年度末	H18年度末	H17年度末
固定負債	5,052,875	5,646,020	6,271,719
流動負債	4,399,881	5,423,815	4,458,054
計	9,452,756	11,069,835	10,729,773
第1号基本金	53,987,353	52,563,441	47,628,567
第2号基本金	3,000,000	1,500,000	2,200,000
第3号基本金	338,910	283,910	233,910
第4号基本金	448,000	448,000	439,000
計	57,774,263	54,795,351	50,501,477
消費収支差額	△6,703,836	△5,149,588	△3,094,440
負債、基本金、消費収支差額の部合計	60,523,183	60,715,598	58,136,810

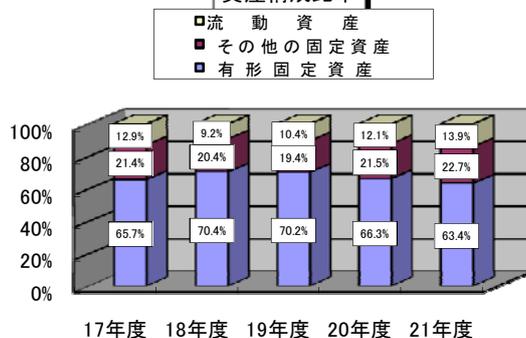
(参考)

正味資産額	51,070,427	49,645,763	47,407,037
-------	------------	------------	------------

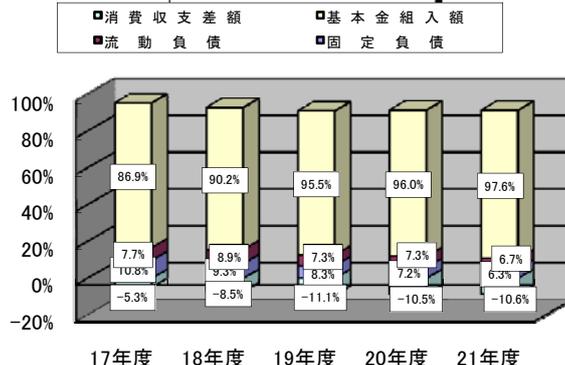
※正味資産＝資産-負債

減価償却額の累計額	11,957,342	11,086,863	9,806,023
基本金未組入額	490,115	1,605,677	999,327

資産構成比率



負債、基本金、収支差額構成比率



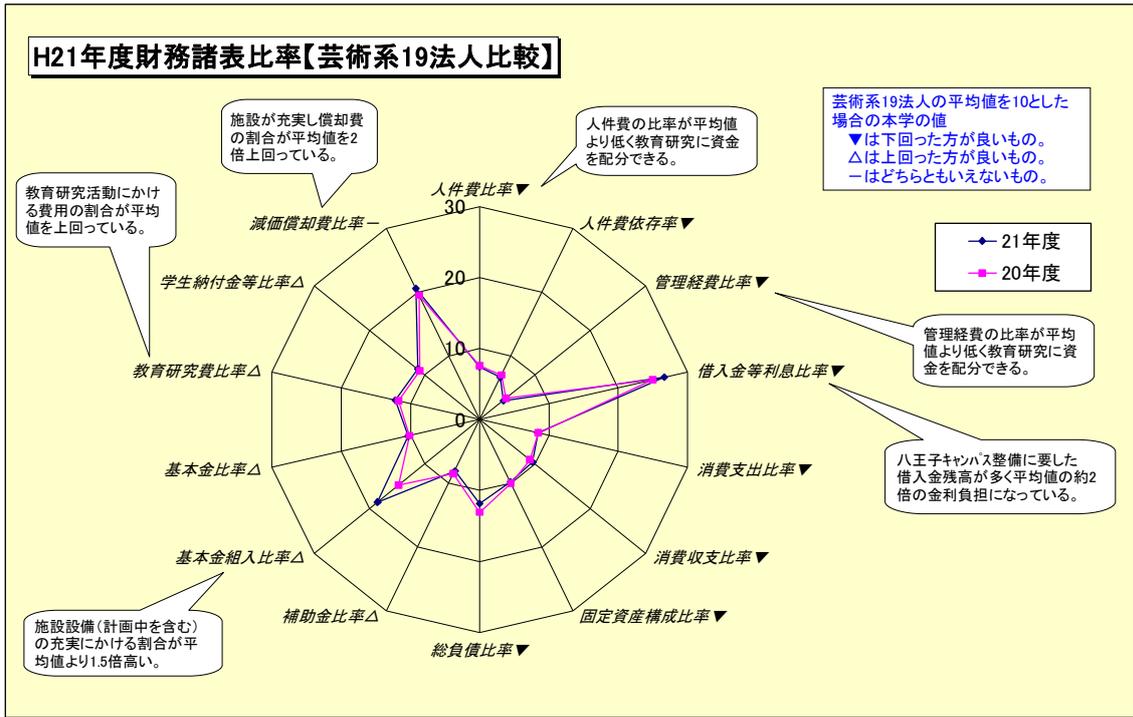
5. 財務比率<平成15年度から平成21年度>

※芸術系平均値は、日本私立学校振興・共済事業団編【今日の私学財政】平成21年度版より算出しました。

項目	算式	評価	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	芸術系平均値
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	▼	40.3%	38.9%	40.5%	40.4%	39.1%	40.7%	40.3%	54.4%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生納付金}}$	▼	46.9%	45.2%	47.3%	46.9%	45.9%	48.5%	46.9%	71.1%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	▼	3.6%	4.6%	5.2%	4.4%	5.1%	4.5%	4.4%	10.4%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金利息}}{\text{帰属収入}}$	▼	1.9%	1.7%	1.5%	1.3%	1.2%	1.0%	0.8%	0.3%
消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	▼	72.6%	76.2%	82.3%	75.4%	84.5%	79.8%	82.1%	97.7%
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	▼	145.3%	111.7%	115.8%	143.0%	125.0%	97.1%	102.4%	107.2%
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	77.6%	83.5%	87.1%	90.8%	89.6%	87.9%	86.1%	87.9%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	20.8%	19.6%	18.5%	18.2%	15.6%	14.5%	13.0%	11.1%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	△	6.5%	5.4%	6.6%	6.1%	7.3%	7.6%	7.3%	9.1%
基本金組入比率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	△	50.0%	30.0%	29.0%	47.3%	32.4%	17.8%	19.8%	10.7%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	95.7%	96.8%	97.9%	97.0%	99.1%	99.1%	100.2%	97.2%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	△	26.3%	29.2%	34.7%	29.1%	36.5%	33.6%	36.4%	29.9%
学生納付金等比率	$\frac{\text{学生納付金}}{\text{帰属収入}}$	△	86.0%	86.2%	85.6%	86.0%	85.0%	84.0%	86.0%	76.5%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	-	17.6%	19.3%	25.2%	20.5%	21.2%	22.8%	22.8%	11.1%

【比率分析の見方】

- 人件費比率＝帰属収入に対する人件費割合を示す重要な比率で低い方が望ましい。
- 人件費依存率＝学生納付金に対する人件費割合で一般的には低い方が望ましい。
- 借入金等利息比率＝低い方が良い。本学は八王子キャンパス整備の際の借入金残高が多く平均値を上回っている。
- 管理経費比率＝帰属収入に対する管理費用の割合で低い方が良い。
- 消費支出比率＝人件費や管理経費、教育研究経費などで消費された比率で低いほど安定し自己資金は充実する。
- 消費収支比率＝消費収入に対する消費支出の割合で低い方が良く比率が100%を超えると支出超過(赤字)となる。
- 固定資産構成比率＝総資産に占める固定資産の割合で低い方が良い、比率が特に高い場合は流動性に欠ける評価。
- 総負債比率＝低い方が良い。総資産に対する他人資金の割合、50%を超えると負債総額が自己資金を上回る。
- 補助金比率＝私立大学等経常費補助金の配分方法見直し、GPなど競争的補助金の積極的な取り組みにより増加。
- 基本金組入比率＝高い方が良いとされる。長期に亘る八王子キャンパス整備により組入れ比率が高水準。
- 基本金比率＝基本金組入対象(教育研究用)資産の自己資金取得による割合で高い方が良い。
- 教育研究経費比率＝帰属収入に対する教育研究活動費用の割合で高い方が良い。
- 学生納付金等比率＝帰属収入の中で最もウエートが高く安定推移が良い。学費のみに依存しない体制作りが重要。
- 減価償却額比率＝将来、資産の更新時に必要である。実質的には消費されずに留保される資金。



【まとめ】

平成21年度末における本学の財政状況は、多額の資金を要した八王子キャンパス整備実施の際に日本私立学校振興・共済事業団を中心に資金を借り入れたことから総負債比率が平均値より若干高くはありますが、負債を返済するための資金ストックおよび毎年度の帰属収支差額に不足なく、今後も安定的な運営資金が十分確保されております。

## 6. 法人の概要

設置する学部学科の名称および入学定員と学生数

### 【大学・学部】

キャンパス	学部	学科	専攻・コース	入学定員	収容定員	学生数
八王子	美術学部	絵画学科	日本画	190	760	(162)
			油画			843
			版画			(538)
		彫刻学科		30	120	138
		工芸学科	陶	60	240	262
			ガラス			
			金属			
		グラフィックデザイン学科		180	720	765
		生産デザイン学科	プロダクトデザイン テキスタイルデザイン	100	385	430
		環境デザイン学科		80	320	359
情報デザイン学科	情報芸術 情報デザイン	120	480	564		
芸術学科		55	220	237		
小計		815	3,245	3,598		
上野毛	造形表現学部	造形学科		40	160	178
		デザイン学科		100	400	416
		映像演劇学科		60	240	277
		小計		200	800	871
合計				1,015	4,045	4,469

カッコ内は専攻の内数

### 【大学院】

キャンパス	研究科	専攻	研究領域	入学定員	収容定員	学生数
八王子 及び 上野毛	美術研究科 (博士前期課程)	絵画専攻	日本画	60	120	120
			油画			
			版画			
		彫刻専攻		12	24	15
		工芸専攻		10	20	21
		デザイン専攻	グラフィックデザイン プロダクトデザイン テキスタイルデザイン 環境デザイン 情報デザイン コミュニケーションデザイン	45	90	88
	芸術学専攻		7	14	15	
小計		134	268	259		
(博士後期課程)	美術専攻		7	21	24	
合計				141	289	283

総計				1,156	4,334	4,752
----	--	--	--	-------	-------	-------

平成21年5月1日現在

## 所在地

- 法人本部・造形表現学部・大学院  
〒158-8558 東京都世田谷区上野毛3-15-34
- 美術学部・大学院  
〒192-0394 東京都八王子市鍵水2-1723
- 美術館  
〒206-0033 東京都多摩市落合1-33-1

## 役員・評議員・教職員の概要

### 【役員】

理事長	藤谷 宣人
理事(学長)	清田 義英
理事	岩倉 信弥
理事	大津 英敏
理事	東海林 隆
理事	高橋 史郎
理事	竹田 光幸
理事	中島 祥文
理事	本江 邦夫
監事	飛鳥田 一朗
監事	森 三千郎

### 【評議員】

評議員	荒川 直
評議員	五十嵐 威暢
評議員	岩倉 信弥
評議員	大津 英敏
評議員	清田 義英
評議員	高橋 史郎
評議員	田口 敦子
評議員	竹田 光幸
評議員	鶴見 雅夫
評議員	中島 祥文
評議員	中野 嘉之
評議員	橋本 京子
評議員	秦 剛平
評議員	平出 隆
評議員	福島 勝則
評議員	藤谷 宣人
評議員	室越 健美
評議員	本江 邦夫
評議員	森下 清子
評議員	山中 玄三郎

### 【教職員の概要(専任)】

大学教員	183名
職員	163名

平成21年5月1日現在